

平成30年7月豪雨災害における災害廃棄物対策支援

情報提供:(一社)廃棄物資源循環学会

被害の特徴:同時多発・広域分散、洪水浸水被害、土砂災害

廃棄物発生特性:浸水被害域からの大量の片づけごみ発生と混合廃棄物化、土砂災害からのがれき混じり土砂発生

行政対応状況:災害廃棄物処理は市町村責任、環境省及び災害廃棄物処理支援ネットワーク(D.Waste-Net)による現地支援チーム設置(4県)等によるプッシュ型支援実施。人員や車両など他自治体からの支援。

岡山県

倉敷市真備町の洪水浸水被害:多数の建物の浸水被害、混合化された大量の廃棄物、自衛隊の協力等による撤去、二次仮置場での選別やその後の処理フロー・計画づくりが課題。

その他、岡山市、高梁市、総社市、笠岡市等も被害

倉敷市真備町の様子



混合廃棄物化が課題

広島県

広島市、呉市、坂町、三原市、熊野町等で主に土砂災害。全体の実態把握中。中小自治体の支援が必要。中小自治体の支援が必要。土砂と瓦礫の分離など、二次処理場や設備導入など、今後の処理フローについて、県全体での検討が必要



土砂も多い(三原市仮置場)



愛媛県

宇和島市、大洲市、西伊予市が被害中心。土砂災害と洪水災害。その他、松野町や輝北町等にも被害。多数の仮置場設置。混合廃棄物の問題あり。仮置き場における分別が必要。中小自治体の支援が課題。



土砂混じりのがれき
(宇和島市)



他府県

福岡県、京都府、岐阜県、奈良県、兵庫県など、他の府県でも広域に被害発生。環境省地方環境事務所や各府県が市町村を支援。



福岡県飯塚市仮置場
(大型家電や畳は分別)



専門家の支援

廃棄物資源循環分野において、D.Waste-Netの一員として、国立環境研究所、日本環境衛生センター、日本廃棄物コンサルタント協会等から専門家を環境省現地支援チームに派遣。仮置場管理、発生量推計、処理フロー・計画策定支援、アスベスト対策支援等を実施中。廃棄物資源循環学会も災害関連の研究者等による調査や情報収集を実施

平成30年7月20日作成